

英語科における 言語活動の充実

(その4)

～ ディクトグロス(Dictogloss)～

Q よく耳にする「ディクトグロス」とは何ですか？



A 文章復元法です。ある程度まとまった英文を学習者に聞かせ、その英文を復元させる学習法です。英語指導に限らず、語学指導で活用されているようです。様々な実践が行われていますが、以下の手順で指導されることが多いです。

<指導の手順>

1	【(扱われる英文についての) 背景知識の活性化】 ・未習の語彙を指導する。 ・扱われる内容についてイメージを深める活動を行う。
2	【英文の聞き取り】 ・教師が話したまとまった英文を、メモを取りながら聞かせる。 (学習者の実態により、英文数、聞かせる回数を設定する。)
3	【英文の再構築 1】 (個人) ・メモ等を基に、個人で英文を再構築させる。
4	【英文の再構築 2】 (ペア or グループ) ・自力で再構築した英文を、他と比較しながら、協力して再検討させる。
5	【確認・修正】 ・元の英文を示し、確認、訂正等を行わせる。 ・必要に応じ、文法事項に関する説明をする。

「ディクテーション」とは違うのですか？



通常のディクテーションとは違い、ディクトグロスでは、学習者は、聞き取った英文をそのまま書き取る必要はありません。再構築する英文についても、内容が合っていればよいので、別な表現を使わせても構いません。

例えば 聞く英文に
Ken is good at skiing. とあっても、書く際は、
Ken can ski. でもよいというわけですね。





そうです。ですから、生徒たちは、語句等の形式よりも、内容を意識した活動ができます。また、ペアやグループ活動を通し、自力で再構築した英文をモニターする作業を組み入れるので、文法事項等への意識も高まります。次に、実際のN中学校3年生のノートを紹介します。前頁の指導の手順と照らし合わせご覧ください。

聞き取らせた英文

In the 1980s there were many people starving in Africa. A charity song *We are the world* was written for them. Many musicians sang it to help them.

It has been sung by many people all over the world for a long time.

前頁<指導の手順>の番号

<ノート>

② 聞き取った英文をメモ

3 各自自力で英文を再構築 (黒文字)
4 ペアで話し合い訂正 (赤文字)
5 教師の示した英文を記入 (青文字)

最後に、この現在完了と受動態の文構造等について確認しました。

聞かせた英文 In the 1980s there were many people starving in Africa.

生徒が書いた英文 In 1980s many people starved in Africa. 大きく意味は変わりません。

教師が与えた英文の内容を考え、英文を再構築している様子が伝わります。

生徒が再構築した英文の内容の整合性について

生徒自身で評価できないケースもあるので、次のように指導するとよいでしょう。

- ・ 個、ペアやグループで英文を再構築する場面で教師から個別に指導する。
- ・ 最初に聞かせた英文を提示する際に生徒からの質問する時間を設けて全体で指導する。

多くの生徒は、この活動が英語力を向上させるのに効果的であると実感し、「これは難しいけどやりがいがある。」等の発言が聞かれました。

各校でも生徒の実態に応じて、英文の難易度を変えたり、英文を書くワークシートを工夫したりして取り組んでみてください。